

【His 束・心室中隔ペーシングに必要な心臓解剖】

右脚は右室側心室中隔（右室中隔（Right ventricular septum : RVS））に位置し中隔縁柱の表面を走行する構造物であり、右室流入路と流出路を分ける構造物である。したがって、心室中隔ペーシングは、この右脚の位置する中隔縁柱より下方の右室流入路中隔領域で施行すべきものと考えられる。この刺激伝導系（特殊心筋）の右脚を逆行性に末梢側より中枢側へ辿ると、その構造は分枝部 His 束（His bundle : HB）から（三尖弁輪を越えて）貫通部 HB に至る。さらにその中枢側は房室中隔に位置する房室結節（Atrioventricular node : AVN）へ連続する。このように、刺激伝導系構造は房室中隔から心室中隔に沿う一つの構造的流れを形成する。

貫通部または分枝部 His 束をペーシング（P）することは、上記構造より右室中隔の右脚をペーシングすることの延長線上にある処置でと考えられる。両ペーシングを施行するにあたり、RVS および HB 周辺構造を熟知すべきであることは当然であるが、そこに潜む構造的ピットフォールを押さえておくべきと考える。ここではそれぞれの治療法の良悪には触れず、この処置を行うとすれば注意しておきたいポイントを紹介したい。